

「ISO 10153 : 1991 鋼-ほう素含有率の定量-クロム吸光度法」の概要; この方法は鋼中に 0.0005~0.012% (m/m) 含有するほう素の定量に適するもので、鉄共存のまま酢酸緩衝溶液中でクロム試薬とほう素の発色錯体を生成させ、545 nm における吸光度を測定する吸光度法である。

この方法に対応する JIS : この ISO 10153 を基本にして発色条件を改善し、分析精度の向上と分析所要時間の短縮を計った改訂案が共同研究会鉄鋼分析部会で作成され、工業技術院に提出済である。なお、この JIS 改訂案を近く ISO 10153 の改訂に結びつけるよう考慮中である。

(2) Approval stage (stage 4)

CD 10697-1 (sol. Ca-原子吸光度法) : DIS の 6 か月 Voting が開始された。(1991.1.24)

(3) 「ICP ガイドライン」検討合同会議が開催され、その決議にもとづき改訂版を作成中。(開催日: 1991.1.30, 主催 AFNOR/Paris, 出席者数: ヨーロッパ勢のみ 11 名)

ISO/TC 17/SC 1/WG 12 「鉄鋼」

ISO/TC 155/SC 4/WG 7 「ニッケル合金」

ISO/TC 102/SC 2/WG 30 「鉄鉱石」

5. TC 67/SC 5 (油井管) 関係

(1) TC 67 組織の Ratification と第 1 回国際会議
中央事務局より前回 TC 67 総会で決定の TC 67 Title, Scope 及び Sub-committee structure の Ratification は 3 月の TB 会議まで遅れるとの連絡があった。しかし、第 1 回 TC 67/SC 5 国際会議は TC 67 総会が中止されない限り、予定通り 6 月に開催することを考えている。

(2) TC 67/SC 5 のメンバー構成

1 月末現在にて下記の国が TC 67/SC 5 への参加を表明している。

P-メンバー: フランス, ドイツ, イタリア, 日本, オランダ, ノルウェー, 英国, 米国

O-メンバー: オーストリア, バルバドス, エジプト, ポーランド, スウェーデン

(3) 第 1 回 TC 67/SC 5 会議の準備状況

TC 67/SC 5 諮問部会 (1 月 23 日開催) で下記の点を討議した。

① Draft agenda の内容の検討

② API 5CT, 5D の ISO 規格化の問題点の整理

(a) SI 単位化の進め方

機械的性質-3 桁整数に丸める

寸法関係-整数丸めは行わない

(b) Reference standards の取扱い

基本的に同等の ISO 規格に置き換える方向で検討する。

6. 国際会議 (向こう 3 か月間の予定)

(1) TC 17/SC 20 (出荷条件)

1991 年 4 月 24~26 日, デュッセルドルフ

(2) TC 17/SC 19 (鋼管)

1991 年 6 月 5~7 日, ミラノ

お知らせ

平成 3 年秋季講演大会は下記により開催されることになりましたのでお知らせいたします。

会 期 平成 3 年 10 月 1 日 (火), 2 日 (水),
3 日 (木)

場 所 広島大学

(〒730 広島市中区東千田町 1-1-89)

● 受賞報告 ●

本会では、関連学協会からの依頼による各賞の候補者を関係者より推薦いただき、表彰奨励推薦分科会、理事会の承認を得て各学協会へ推薦いたしております。

本年 2 月に下記の賞の受賞が決定いたしましたのでお知らせいたします。

1) 大河内記念生産特賞

「H 型鋼の高効率自在形成技術の開発」

新日本製鐵(株)

川崎製鐵(株)

2) 大河内記念技術賞

「高炉用新塊成鉄製造技術の開発」

日本鋼管(株)

3) 東レ科学技術研究助成

「電子ビーム溶解を用いたチタンの新製造法」

東京大学 前田 正史

